

大阪医科大学学報

第43号 平成12年2月



春待ち雛

◆目

理事長再任にあたって	3
規程関係	4～5
叙勲について	5
人事〔法人、採用、退職、昇任、異動、 休職・復職、委嘱・解嘱、海外渡航〕	6～7
訃報	7
お詫びと訂正	7
学校債・寄付金関係	8～9
文部省補助金・助成金関係	10
学位記授与	11～12

◆次

医学会秋季学術講演会	13
教室紹介	14～15
海外出張記	15～16
受賞関係	17
学内行事	18～19
会議・行事予定	19～21
附属病院関係	22
保健管理室からのお知らせ	23～25
俳句	26

理事長再任にあたって

理事長 田中忠彌



去る、12月1日付で、理事長に再任されました。現在、私立医科大学を取り巻く環境は、医療保険の見直し、薬価差益の減少、預金金利の低落、消費税の問題等、私が4年前に就任した時点より更に厳しい状況にあります。本学の財政もそうした状況の中、平成8年度から3年連続帰属収支で赤字となっております。幸い、教職員の皆様方の努力により、収支は改善の方向に向いつつありますが、依然予断を許さない状況です。

本学は、平成9年に創立70周年を迎えました。その記念事業として、新総合棟（7号館）建設計画に着手し、現在基本設計に至っております。同建設計画では、事業推進室を設置し、教職員、仁泉会、学生保護者、一般及び法人を対象とした学債、寄附金の募集を行い、各位より篤志を頂いております。皆様方の御厚志には、心より感謝申し上げますと共に、今後のご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成10年12月、財政基盤の強化を目的に、法人が本学医師会等の協力を得て設立しました株式会社西泉は、損害保険を中心に順調な営業活動を行っております。今後は、より安全で確実な収益を確保するために、旅行の斡旋、医療機器の代理店販売等を計画し、本学の発展に寄与できるよう営業を拡大する予定であります。

21世紀を目前にして医科学技術の発達、臓器移植、遺伝子問題など、急速な展開を示しており、それに対応して教育・研究・診療の活性化を図るためにはハード、ソフト面での充実と、時代の変化に対応できる柔軟な組織・体制作りが必要となります。法人理事会では、そうした現状と、将来の本学のあるべき姿を具体的に策定することを目的に平成11年10月、理事会の下に経営専門委員会を設けました。同委員会には、中・長期計画の策定、組織・人事制度策定、財政計画策定の3つの専門委員会を設置し、1年以内を目標にそれぞれのテーマに従った経営計画を提出頂き、理事会で審議していく予定であります。

変動が予測される21世紀に、大阪医科大学が益々発展をしていくためには、すべての教職員が個々の責任を果たし、協力していかなくてはなりません。

法人の財政基盤の安定強化を図り、良医、看護婦・士の育成と、地域社会のニーズに応えられる教育・医療機関となるべく、更なる努力をいたす所存であります。

規 程 関 係

大阪医科大学学長予定者選考規程施行細則の一部改正について

大阪医科大学学長予定者選考規程施行細則が次の通り改正されました。

大阪医科大学学長予定者選考規程施行細則

(関係条文新旧対照表)

新	旧
<p>(趣 旨)</p> <p>第1条 この細則は、大阪医科大学学長予定者選考規程（以下、「規程」という。）第15条の規定に基づき、その実施に関し、必要な事項を定める。</p> <p>(選考手続きの開始)</p> <p>第2条 規程第4条に定める学長予定者選考手続きの開始は、学長または学長代行が、学長予定者（以下、「予定者」という。）の選考手続きを行う旨を公示して行う。</p> <p>(選挙委員会の構成および任期)</p> <p>第3条 <u>学長予定者選挙管理委員会(以下、「選挙委員会」という。)</u>の委員は、教授、助教授、講師および助手の各職位からそれぞれ四名ずつ選出された計十六名の委員について、学長または学長代行が委嘱する。</p> <p>2 委員の任期は、<u>四年とし、二年ごとに半数ずつ改選する。</u></p> <p>3 委員に欠員が生じた場合は、直ちにその委員の属する職位から委員を補充するものとする。</p> <p>4 <u>補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。</u></p>	<p>(趣 旨)</p> <p>第1条 この細則は、大阪医科大学学長予定者選考規程（以下、「規程」という。）第15条の規定に<u>基き</u>、その実施に関し、必要な事項を定める。</p> <p>(選考手続きの開始)</p> <p>第2条 規程第4条に定める学長予定者選考手続きの開始は、学長または学長代行が、学長予定者（以下、「予定者」という。）の選考手続きを行う旨を公示して行う。</p> <p>2 学長または学長代行は、前項の公示の後、<u>すみやかに学長予定者選挙管理委員会(以下、「選挙委員会」という。)</u>の委員を委嘱しなければならない。</p> <p>(選挙委員会の構成および任期)</p> <p>第3条 <u>選挙委員会</u>の委員は、教授、助教授、講師および助手の各職位からそれぞれ四名ずつ選出された計十六名の委員について、学長または学長代行が委嘱する。</p> <p>2 委員の任期は、<u>委嘱の日から予定者の確定する日までとする。</u></p> <p>3 委員に欠員が生じた場合は、直ちにその委員の属する職位から委員を補充するものとする。</p>
<p>(規程改正委員会)</p> <p>第12条 規程第14条に定める学長予定者選考規程改正委員会の委員（以下、「改正委員」と</p>	<p>(規程改正委員会)</p> <p>第12条 規程第14条に定める学長予定者選考規程改正委員会の委員（以下、「改正委員」と</p>

いう。)は、規程第8条に定める有権者の各職位からそれぞれ二名ずつ選出された計八名について、学長が委嘱する。

- 2 改正委員のうち一名を委員長とする。
- 3 改正委員の任期は四年とし、二年ごとに半数ずつ改選する。改正委員に欠員が生じたときは、当該委員の属する職位から補充し、その任期は前任者の残任期間とする。
- 4 改正委員は、予定者選考に関する他の委員会の委員を兼ねることはできない。
- 5 改正委員が候補者となったときは、その地位を失うものとする。

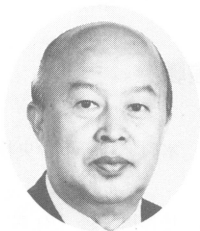
いう。)は、規程第8条に定める有権者の各職位からそれぞれ二名ずつ選出された計八名について、学長が委嘱する。

- 2 改正委員のうち一名を委員長とする。
- 3 改正委員の任期は二年とし、改正委員に欠員が生じたときは、当該委員の属する職位から補充し、その任期は前任者の残任期間とする。
- 4 改正委員は、予定者選考に関する他の委員会の委員を兼ねることはできない。
- 5 改正委員が候補者となったときは、その地位を失うものとする。

附 則

- 1 この改正は、平成11年6月23日から施行する。
- 2 この改正規定施行後最初の委員の委嘱は、第3条第1項に定める各職位から、任期二年の委員と、任期四年の委員を区別して行う。

叙 勲 に つ い て



松本秀雄名誉教授
勲三等旭日中綬章



鉤スミ子名誉教授
勲四等宝冠章

平成11年「秋の叙勲」で、永年の医学界への貢献に対し、元学長の松本秀雄名誉教授が、勲三等旭日中綬章を、鉤スミ子名誉教授が、勲四等宝冠章を受章されました。

人 事

〔法人〕

就任

理事長	田中 忠彌	12. 1
理事	田中 忠彌	12. 1
〃	小倉 裕	1. 1
監事	國澤 隆雄	1.18
常任監事		
退任		
理事	佐藤 博之	11.30

〔採用〕

助手	杉 和憲 (内科学Ⅱ)	12.16
〃	小倉 康晴 (放射線医学)	1. 1
〃	三崎 敏正 (〃)	〃
〃	中村 雅宏 (耳鼻咽喉科学)	〃
技術員 (臨床検査技師)	岩切 早苗 (輸血室)	〃
技術員 (薬剤師)	穂刈 玲子 (病院薬剤部)	〃
助手	下村 裕章 (内科学Ⅲ)	2. 1
〃	田中慶太郎 (一般・消化器外科学)	〃
〃	木下 昌重 (泌尿器科学)	〃
〃	坂井 昌弘 (産婦人科学)	〃
〃	竹原 幹雄 (〃)	〃
〃	山本 哲久 (I C U)	〃

〔退職〕

技術員 (臨床検査技師)	中島かおり (中央検査部)	11.15
技術員 (栄養士)	須子 政代 (栄養給食課)	11.30
助教授	内海 隆 (眼科学)	12.31
講師	石橋 孝嗣 (一般・消化器外科学)	〃
〃	酒谷 省子 (皮膚科学)	〃
学内講師	田中 康敬 (放射線医学)	〃
助手	岡部 眞 (内科学Ⅲ)	〃
〃	權 五規 (一般・消化器外科学)	〃
〃	北川 美和 (耳鼻咽喉科学)	〃
〃	土井 健司 (放射線医学)	〃
事務員	横井 妙子 (病院事務部医事課)	1.15
技術員 (薬剤師)	増山 幸男 (病院薬剤部)	〃
看護婦	住吉 千里 (病院看護部)	〃
〃	池田 美香 (〃)	12.31
〃	柳ヶ瀬幸子 (〃)	〃

看護婦	出馬 晋二 (産婦人科学)	1.15
〃	小笠原尚子 (〃)	〃
技術員 (臨床検査技師)	岩切 早苗 (輸血室)	〃
助手	日下 守 (泌尿器科学)	1.31
看護婦	久後亜矢乃 (病院看護部)	〃
看護事務員	藤田 幸子 (〃)	〃

〔昇任〕

内科学Ⅲ 講師	林 哲也 (学内講師)	11.16
〃	西村 光 (〃)	〃
口腔外科学 講師	橋口 範弘 (〃)	〃
一般・消化器外科学 助教授	竹田 幹 (講師)	12. 1
眼科学 助教授	中島 正之 (診療助教授)	1. 1
眼科学 診療助教授	徳岡 覚 (講師)	〃
眼科学 講師	佐藤 文平 (学内講師)	〃

〔異動〕

解剖学Ⅱ 助手	前村憲太郎 (内科学Ⅱ)	12.16
一般・消化器外科学 助手	日外 知行 (I C U)	2. 1

〔休職・復職〕

(休職)		
技術主任	水岡 靖子 (中央検査部)	12.16
(復職)		
助手	長谷川 稔 (内科学Ⅱ)	11.15
〃	瀬川 直樹 (泌尿器科学)	1. 1

〔委嘱・解嘱〕

(委嘱)		
学内講師		
助手	寺崎 文生 (内科学Ⅲ)	12.16
〃	清水 一弘 (眼科学)	1. 1
脳神経外科学講座担当教授選考委員会委員長		
教授	田嶋 定夫 (形成外科学)	10.20
附属病院長選挙管理委員会委員		
教授	窪田 隆裕 (生理学Ⅱ)	1. 5
〃	芝山 雄老 (病理学Ⅰ)	〃
助教授	麻田 邦夫 (胸部外科学)	〃

講 師 後藤 俊幸 (微生物学)	1. 5	台湾 (台北)	11. 27~12. 3
助 手 宗宮 浩一 (内科学Ⅲ)	〃	榎林 勇 (放射線医学教授)	
〃 岡本 順子 (胸部外科学)	〃	清水 雅史 (〃 助教授)	
医事課長 吉間 正男 (病院事務部)	〃	小森 剛 (〃 助手)	
薬剤課長 竹村喜一郎 (病院薬剤部)	〃	山本 和宏 (〃)	
看護部長代理 神谷美佐子 (病院看護部)	〃	アメリカ (シカゴ)	11. 27~12. 3
看護婦長 富成よし子 (〃)	〃	森松 伸一 (微生物学助教授)	
同上委員長		フィリピン (マニラ)	11. 12. 23~12. 12. 22
教 授 芝山雄老 (病理学Ⅰ)	1. 7	原 均 (一般・消化器外科学学内講師)	
学校法人大阪医科大学経営 (組織・人事制度策定) 専門委員会委員		マレーシア (クアラルンプール)	12. 2~12. 23
理 事 植木 實	11. 1	岡本 雅雄 (整形外科学助手)	
同上委員長		スイス (ダボス)	12. 11~12. 23
理 事 美濃 眞	12. 13	河野 公一 (衛生学・公衆衛生学教授)	
学校法人大阪医科大学経営 (中・長期計画) 専門委員会委員長		渡辺 美鈴 (〃 講師)	
理 事 佐々木進次郎	12. 13	土手友太郎 (〃)	
学校法人大阪医科大学経営 (財政計画策定) 専門委員会委員長		中国 (瀋陽)	12. 21~12. 24
理 事 東 郁郎	12. 13	佐々木 聖 (小児科学講師)	
跡地利用委員会委員		アメリカ (ハワイ)	1. 9~ 1. 16
教 授 田嶋 定夫 (形成外科学)	1. 6		

〔海外渡航〕

時津 浩輔 (胸部外科学助手)		アメリカ (アトランタ)	11. 6~11. 13
諏訪 道博 (内科学Ⅲ講師)		アメリカ (アトランタ)	11. 6~11. 14
田中 孝生 (内科学Ⅲ助教授)		林 哲也 (〃 学内講師)	
林 哲也 (〃 学内講師)		アメリカ (アトランタ)	11. 7~11. 14
堀本 仁士 (胸部外科学助手)		アメリカ (アトランタ)	11. 7~11. 13
中張 隆司 (生理学Ⅰ講師)		韓国 (ソウル)	11. 18~11. 13
宮崎 瑞夫 (薬理学教授)		高井 真司 (〃 講師)	
高井 真司 (〃 講師)		香港	11. 20~11. 21
時津 浩輔 (胸部外科学助手)		アメリカ	11. 22~12. 1
中野 隆史 (微生物学学内講師)		フィリピン (マニラ)	12. 2~12. 7
太田 富雄 (脳神経外科学教授)		中国 (上海)	11. 13~11. 16
竹内 栄一 (脳神経外科学講師)			

訃 報

本学名誉教授の河邊六男先生が去る1月21日(金)ご自宅にて逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

お詫びと訂正

前回発行の42号に一部誤りがありましたので、お詫びし訂正致します。

P14 (人事)

解嘱の項に掲載された経営専門委員会及び跡地利用委員会は、委嘱の誤りでした。

P21 寄附金関係

教職員の項に掲載された宮武明氏は、白友会会員の誤りでした。

本学附属病院新総合棟建築に係る学校債及び寄附金の応募状況について

項目 区分	学校債		寄附金	
	件数	総額	件数	総額
本法人役員・評議員	30	101,500,000	3	1,800,000
教職員	423	210,500,000	8	1,075,000
仁泉会会員	38	49,000,000	79	17,010,000
白友会会員			48	2,368,000
法人等(個人、一般含む)その他	4	26,750,000	35	36,451,481
計	495	387,750,000	173	58,704,481

平成11年12月31日現在

〈学校債申込者名〉

10月1日から12月31日までの間に学校債申込者は、22件、金額27,000,000円です。

ここに学校債申込をいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

(順不同・敬称略)

○教職員 6件、金額7,000,000円

吉中貞子 植田政嗣 植木 實 三宅裕治 栗栖義賢 足立 至

○仁泉会員 16件、金額20,000,000円

糸田川良夫 鈴木丈二 山本康久 金子 仁 金森利英 岩崎 正 大森英夫
 柿本祥太郎 阿部邦昭 飯島崇史 大東英夫 平山公三 医療法人東和会 理事長 飯田稔
 小林 正 丹家元祥 清水 伸

学校債募集期間 平成12年2月14日(月)まで

募集対象者 本法人役員・評議員、教職員、仁泉会会員、学生保護者

債券金額 1口50万円

問い合わせ先 大阪医科大学事業推進室

TEL0726-84-6344

〈寄附金申込者名〉

10月1日から12月31日までの間に寄附金申込者は、63件、金額29,075,000円です。

ここに寄附金申込をいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

(順不同・敬称略)

○教職員 6件、金額1,060,000円

門田雅人 大槻哲彦 横井妙子 中張隆司 森田智津子 稲森耕平

○仁泉会会員 29件、金額7,050,000円

大塚嘉彦 鈴木昭二 岩崎 正 丹家元晴 大森英夫 林 泰三 山口春雷

山中英令 荒木恒治 福本 攻 金森利英 谷尻 仁 吉川武重 和田晃直
福西新弥 朝隈六郎 遠藤秀彦 山本 栄 小林 正 阪口昌子 辰巳嘉章
渡部洋一郎 中張裕子 藤沢通明 村岡徹二 堀 好二 渡辺昌裕 芥川知明
栗本宗治

○白友会会員 9件、金額 295,000円

小野武子 吉村照子 絵野逸子 西本和子 壁谷艶子 清瀬邦子 山本ケイ子
水野初江 村井富子

○法人等（個人、一般を含む）その他 19件、金額20,670,000円

寄付者

株式会社エス・ビー・エム
有限会社すばる印刷
株式会社アテスト
大阪医科大学微生物学教室
北園米穀店
医療法人博進会南部病院
関西テイサンガス株式会社
東洋美工株式会社
日本エア・リキード株式会社大阪リージョン
株式会社エスアールエル
株式会社メディコスモ
株式会社スポーツテクノ和広大阪支店
ハクゾウメディカル株式会社
株式会社高浄
キット薬品工業株式会社
株式会社アズバイオ
若林耳鼻咽喉科
オオモリ薬品株式会社
佐野ケイ

代表者

代表取締役 角谷孝雄
代表取締役 野村昌男
代表取締役 福田 誠
佐野浩一
池戸孝子
理事長 小笠原博
代表取締役 田邊 貢
代表取締役 藤川正一郎
リージョン長 門垣英敏
代表取締役 近藤俊之
代表取締役 竹本則彦
支店長 村上成広
代表取締役 佐々木宏
代表取締役 長井 武
代表取締役 上平 浩
代表取締役 安井正文
医師 若林致雄
代表取締役社長 五十川惟一

寄附金募集期間	平成13年12月末日まで ※税法上の優遇措置が受けられます。
募 集 対 象	本法人役員・評議員、教職員、仁泉会会員、白友会会員、学生保護者、一般個人及び法人
寄 付 金 額	個人1口10万円、法人1口50万円 但し、1口未満の金額でもお受けいたします。
問 い 合 わ せ 先	大阪医科大学事業推進室 TEL0726-84-6344

文部省補助金の内定について

平成11年度 私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費）

装置名	区分	事業経費	補助内定額
プロテオーム解析を基盤とする生体分子の構造と機能研究システム	研究（院）	109,998,000円	54,999,000円

平成11年度 私立大学等研究設備整備費等補助金（私立大学等研究設備等整備費）

設備名	区分	事業経費	補助内定額
電子スピン共鳴装置システム	特別設備	37,999,500円	21,534,000円
生体調節機能ポリグラフシステム	特別設備	16,800,000円	9,521,000円
凍結ミクロトーム	特別設備	5,658,450円	3,207,000円
連続指血圧測定装置	特別設備	5,250,000円	2,976,000円

平成11年度 文部省科学研究費補助金（萌芽的研究）

研究課題	所属・職・氏名	内定金額
大腸菌定常期における加齢現象の研究	物理学 助教授・和田 明	140万円

助成金の決定について

平成11年度 エイズ予防研究助成金〔財〕大阪公衆衛生協会]

研究課題	所属・職・氏名	助成金額
エイズ患者の痛みの発現機構の解明	麻酔科学 助手・南 敏明	30万円

平成12年度 文部省科学研究費補助金申請状況

平成12年度科学研究費補助金には、10月30日（土）の受付終了までに、計172件の申請がありました。（内訳は右表の通り）

研究種目等の区分	審査区分等	件数
基盤研究（B）	一般	20
	展開研究	5
基盤研究（C）	一般	74
	企画調査	1
萌芽的研究		24
奨励研究（A）		42
特定領域研究（A）		4
地域連携推進研究費		2
計		172

平成11年度（第Ⅱ回）学位記授与

平成11年度第Ⅱ回学位審査には、大学院医学研究科修了による者および論文提出による者の申請があり所定の審査が行われました。

その結果、平成11年11月24日をもって16名が合格し、11月30日（火）午後2時から第2会議室において学位記授与式が行われました。

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第583号	山本 員久	A FUNCTIONAL AND QUANTITATIVE MUTATIONAL ANALYSIS OF p53 MUTATIONS IN YEAST INDICATES STRAND BIASES AND DIFFERENT ROLES OF MUTATIONS IN DMBA- AND BBN-INDUCED TUMORS IN RATS (化学発癌物質誘発ラット腫瘍におけるp53遺伝子変異のYeast functional assayによる解析)
乙第842号	浜本 順博	Inhibition of dextran sulphate sodium (DSS)-induced colitis in mice by intracolonicly administered antibodies against adhesion molecules (endothelial leucocyte adhesion molecule-1 (ELAM-1) or intercellular adhesion molecule-1 (ICAM-1)) (抗接着分子 (ELAM-1、ICAM-1) 抗体注腸投与によるマウスDSS腸炎の病変抑制効果に関する検討)
乙第843号	藤平 司郎	Origin and pathogenesis of eosinophilic globules in the epididymal ducts in rats treated with cyclosporine A (サイクロスポリンA投与ラット精巢上体管内の好酸性小球の起源と病理発生)
乙第844号	成山 硬	心臓原発悪性リンパ腫の臨床病理学的検討
乙第845号	根来 伸行	The kinase inhibitor fasudil (HA-1077) reduces intimal hyperplasia through inhibiting of migration and enhancing cell loss of vascular smooth muscle cells (キナーゼ阻害剤ファスジルは血管平滑筋細胞の遊走を抑制し細胞消失を増強することにより内膜肥厚を抑制する)
乙第846号	佐々木伸一	Prostaglandin E ₂ Inhibits Lesion Formation in Dextran Sodium Sulfate-induced Colitis in Rats, Reductions in Mucosal Inflammatory Cytokines (PGE ₂ はDSS腸炎病変の形成を抑制し、腸粘膜炎症性サイトカインの産生を抑制する)
乙第847号	戸田 千綾	In vitroにおけるメラノーマ細胞に対する、DTICおよびDTIC + 温熱処理の影響と72-kDストレスタンパク質の動向

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第848号	酒井 泰彦	Dual-chamber pacing in hypertrophic obstructive cardiomyopathy : A comparison of acute and chronic effects (閉塞性肥大型心筋症におけるDDDペースング：急性効果と慢性効果 の比較)
乙第849号	栗栖 義賢	Histologic and immunohistochemical analysis of early submucosal in- vasive carcinoma of the colon and rectum (大腸粘膜下浸潤癌の組織的、免疫組織学的検討)
乙第850号	中野 佳津	血清中キマーゼ濃度の測定法の確立とその臨床応用の可能性
乙第851号	吉本 健朗	Human heart-type cytoplasmic fatty acid-binding protein as an indi- cator of acute myocardial infarction (急性心筋梗塞の生化学的診断指標としての心筋型脂肪酸結合蛋白)
乙第852号	堀本 仁士	Nitric oxide generating beta-adrenergic blocker nipradilol preserves postischemic cardiac function (Nitric oxide放出性ベータブロッカー、ニプラジロールは虚血後の心 機能を改善する)
乙第853号	細井富士夫	悲観血的連続自動血圧計ならびに薬理学的検討による糖尿病患者にお ける起立時血圧変動パターンの分析
乙第854号	岡本 順子	冠動脈バイパス術における同種血輸血に関与する因子の検討
乙第855号	吉田 麻美	Scores of Coronary Calcification Determined by Electron Beam Computed Tomography Closely Relate to the Extent of Diabetes- Specific Complications (超高速CTによる冠動脈石灰化指数と糖尿病性合併症との関連性)
乙第856号	近藤 進	Effects of ebselen on cerebral ischemia and reperfusion evaluated by microdialysis (脳虚血および再灌流に対するebselenの効果 —微小透析法による検討—)

平成11年度 医学会秋季学術講演会

平成11年度秋季学術講演会が、下記のとおり開催されました。

日 時 平成11年11月17日(水) 午後2時～5時

場 所 臨床第一講堂

[特別講演]

『心筋症 —病因と臨床—』

本学 第3内科学教授

北浦 泰



[ミニシンポジウム]

本学における遺伝子関連研究の現状

関連病院長会総会開催

平成11年度大阪医科大学関連病院長会総会が、11月19日(金)午後3時から、たかつき京都ホテルにおいて、島田学長、佐々木病院長、および各教授、各関連病院長ら100名を超える関係者の出席のもと開催されました。

総会では、島田学長の開催挨拶に続き、佐々木病院長から平成10年度経過報告他が行われた後、下記のとおり特別講演が行われました。

[特別講演]

『カルテの開示について

—リスクマネジメントの視点から—』

東京海上メディカルサービス株式会社

メディカルリスクマネジメント室

課長 鮎澤純子氏



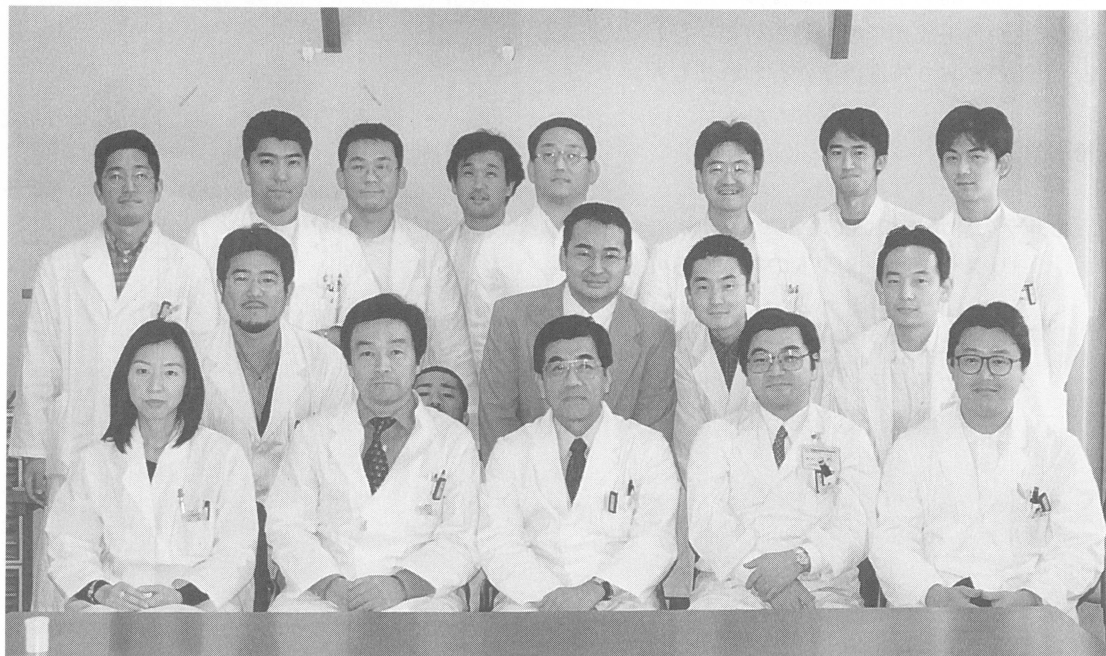
教 室 紹 介

泌尿器科学教室

本教室は今年で開講42年になる。初代石神襄次教授・2代宮崎重教授・3代岩動孝一郎教授と引き継がれ、平成8年4月より現勝岡洋治教授が就任している。現在、教室員は教授以下、上田陽彦助教授、郷司和男講師、助手7名、専攻医5名、大学院生5名、研修医5名の計25名である。

勝岡教授就任以来本教室はこれまで診療・研究・教育全てにおいてさまざまな改革を行ってきた。診療面では、外来診療制度の改革として特定機能病院の一翼を担うべく、初診・再診とは別に種々の専門外来枠を設けて、より洗練された医療をめざしている。現在、腎機能外来・腎移植外来・CAPD（腹膜透析）外来・腫瘍外来・ED（インポテンス）外来・男性不妊外来・

排尿力（排尿障害）外来・尿失禁外来・前立腺（エコー）外来を開設し、高齢化社会に伴うQOLの改善等に努めている。病棟管理（入院診療）制度の改革としては勝岡教授の母校である慶応大学泌尿器科学教室のシステムを参考とし、チーフ・レジデント制度を就任2年目よりスタートさせている。これは、病棟管理をチーフ、その下に副チーフ、その下に数名の主治医を配し1つのグループとし、教授・助教授等教室スタッフの助言・指導のもと各自それぞれの立場に応じて自己の能力を伸ばそうとするシステムである。特にチーフは副チーフ以下の教室員のマネジメントを通じて、今後さらに要求される医師の責任感・判断力・部下の統率能力等を身につけることを大目標としている。研究面では、分子生物学的手法を中心に腫瘍・移植等における基礎的研究に着手している。特に臨床科である泌尿器科にとって基礎的分野の知識・技術を



補うために、学内外を問わず、必要に応じて多くの基礎系教室の協力を得られるようになったことは教室員にとって貴重な財産である。尚、学内第一解剖学教室・第二病理学教室・微生物学教室・薬理学教室・北海道大学癌研究施設細胞制御部門・和歌山県立医科大学第二病理学教室の先生方には多大な御尽力を賜り、ここに改めて感謝の意を表したい。教育面では、本学が将来研修制度におけるスーパーローテートシステムを導入するのにさきがけて、教授就任2年目より初期研修医に関連診療科として、麻酔科・ICU・放射線科・第二内科(腹部エコー)・救命救急センターへのローテートを義務づけ、プライマリーケアに対応できる医師の養成に取

り組んでいる。尚、各科の先生方にも改めて感謝の意を表したい。一方、学生教育については、ベッドサイド実習では当科の専門色を打ち出した教育を実践しているが、学生講義ではスタッフ数の不足や担当医師の診療業務の過密スケジュール等問題点も多く、今後の課題と考える。

近年、自然科学の一分野として医学は進歩を遂げてきたが、その底流には精神的支柱となる哲学・宗教学の存在が必要と感じる。スポーツの世界ではよく「心技体」という言葉を耳にするが、本教室の改革の理念もまさにここにあるといえる。

(鈴木)

海外出張記

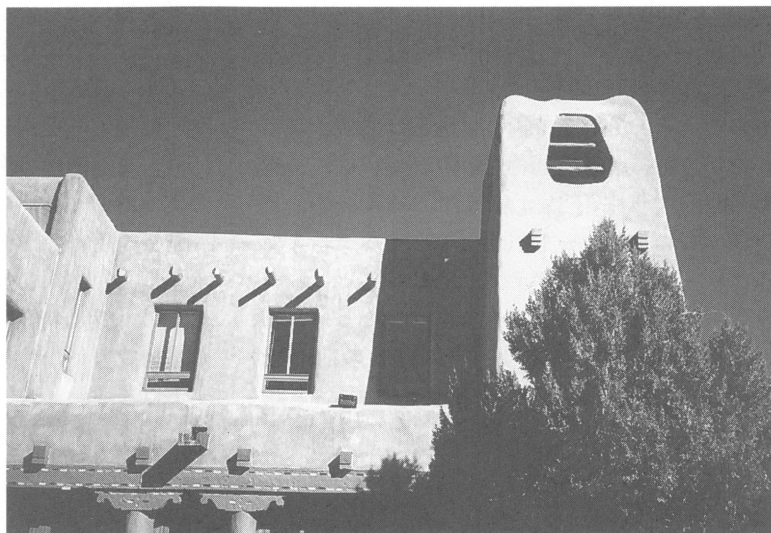
“10th International Symposium on Vitamin B₆ and Carbonyl Catalysis and 4th Meeting on PQQ and Quinoproteins” in Santa Fe (USA)に参加して。

医化学教室助手

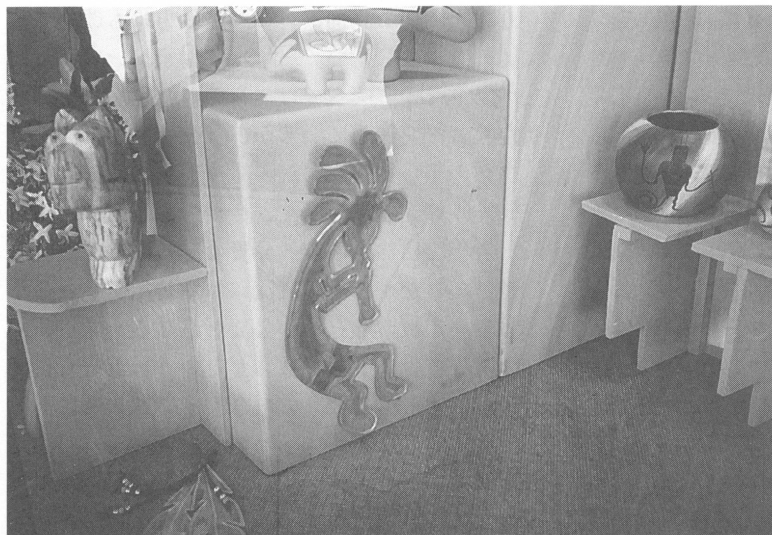
中井 由実

さる10月31日から6日間の日程でアメリカ、ニューメキシコ州サンタフェにおいて開催された上記の国際会議に参加した。サンタフェは「アメリカの魅力的な町」にも数えられる観光地で、ネイティブ・アメリカン風の赤壁(アドベ)造りとその後入植したスペイン人の影響を受けた建物の混在する、きれいな町である。店の二階の軒にはメキシカン・テイストの赤いチリ(とうがらし)が干してあり、レストランのメニューには激辛青

チリソース味のものも多い。いくつかの文化の



Santa Fe 市内で多く見られた典型的なアドベ(赤壁)造りの建物、天井を打抜いた太い柱が通っているのも特徴。



ココペリ (Kokopelli)

ネイティブ・アメリカンの伝承によると、笛の名手、転じて音楽の神を表わす。街のあちらこちらにこの意匠を見かけた。

融合したこの町のまわりには、山頂に薄く雪を頂くデンバーの山々や、広大な草原に点在するネイティブ・アメリカンの居住区（プロブエ）等が、毎日雲ひとつない晴天と大変乾燥した気候の元に存在し、いずれも十分刺激的な風景であった。

この風光明媚な地で開催された、“10th International Symposium on Vitamin B₆ and Carbonyl Catalysis and 4th Meeting on PQQ and Quinoproteins”は2つの国際会議の合同開催で、これは前回1994年イタリア・カプリに続くものである。それまで両者は別個に開催されていたが、特に前者の通称“国際B₆学会”は、1962年のローマ以来、2-4年毎に、モスクワ・名古屋・レニングラード（現セント・ペテルズブルグ）・トロント・アテネ・テュルク（フィンランド）・大阪・カプリ（イタリア）と、実に37年間息長く続いており、今回は初のUSAでの開催である。今回の会議参加者は200名を超

え、また口頭発表は80にのぼりポスターでの参加も多数あった。

筆者らの研究室は、B₆酵素であるアミノ基転移酵素の研究によってこの会議との付き合いが長く、今回は鏡山博行教授、林秀行助教授、以下計6名の参加で3つの口頭発表と2つのポスター発表を行なった。筆者もポスター発表を携えて参加した。会議の行なわれたサンタフェ・ヒルトンは、本物の暖炉の火が入ったエントランス・ホールに

ネイティブ・アメリカンの意匠をあしらった内装がサンタフェらしく、このくつろいだ雰囲気の中で、各々の口頭・ポスター発表に、会場の内外で多数の議論が精力的に行なわれていた。また夜にはポスターの口頭発表も行なわれ、皆ワイン片手に会場に集まり議論を展開した。また、遠足日も設けられ、バンケットにはメキシカン・スタイルのバンドマンもついて会議参加者も輪になって踊ったり、ダンスを楽しんだりした。このような大変趣向をこらした会議スタイルも良いものと思った。

帰国すると、日本はすっかり秋深くなっており、また適度の湿度もあってほっとしたのは事実であるが、いつもと異なる環境の中で様々な刺激を受けながら自分の研究内容について見据える機会を持てたのはよかったとつくづく思った。

この貴重な経験の機会を与えて頂きました、当研究室鏡山博行教授に、末筆ながらお礼申し上げます。

教職員の受賞について

EANM SPRINGER PRIZE 1999 -Best Clinical Paper in EJNM 1998 受賞

1998年のEuropean Journal of Nuclear Medicine (EJNM) に掲載された臨床論文のうち最優秀論文に贈られるEANM SPRINGER PRIZE 1999 -Best Clinical Paper in EJNM 1998の授賞式が、10月9日(土)～13日(水)にスペインのバルセロナで開催されていたヨーロッパ核医学会の中で行われ、放射線医学教室の宇都宮啓太助手が受賞されました。

論文名 “Effects of Aldose Reductase Inhibitor and Vitamin B12 on Myocardial uptake of iodine 123

Metaiodobenzylguanidine in patients with non insulin dependent diabetes mellitus”

The 1999 Fellow Research Trainee Prize 受賞

北米放射線学会において各部門のfellowのbest paperに贈られるThe 1999 Fellow Research Trainee Prizeの授賞式が11月28日(日)～12月3日(金)に開催されていた同学会の中で行われ、放射線医学教室の宇都宮啓太助手が受賞されました。

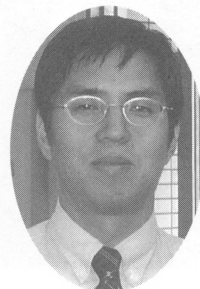
論文名 “Comparison of the Kinetics of 99m-Sestamibi and 99mTc-Tetrofosmin in a multidrug-resistant Tumor Cell Line”



日本臨床病理学会学術奨励賞受賞

優れた研究業績をあげた者の功績をたたえる日本臨床病理学会学術奨励賞の授賞式が、11月10日(水)開催の第46回日本臨床病理学会総会において行われ、病態検査学教室の中西豊文講師が受賞されました。

業績題目 「質量分析による構造異常蛋白質の検出と定量」

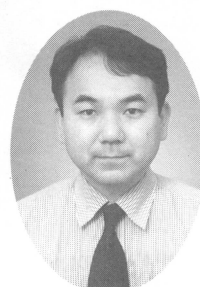


NIDAYsアプリケーションコンテスト優秀賞受賞

日本ナショナルインスツルメンツ株式会社の製品を用いて優れたアプリケーションを開発した者に贈られるNIDAYsアプリケーションコンテスト優秀賞の授賞式が、11月19日(金)東京の笹川記念会館、11月26日(金)大阪国際交流センターの2ヶ所で行われ、脳神経外科学教室の梶本宜永学内講師が受賞されました。

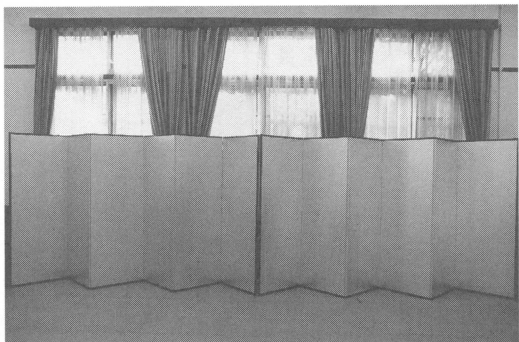
アプリケーション名

「LabVIEWを用いた臨床生理データ収集システム」



金屏風寄贈

武内敦郎名誉教授所蔵の金屏風一双が、11月24日（水）本学に寄贈され、平成12年の年賀交歓会から、本学の慶事に華を添えることになりました。



平成11年度実験動物慰霊祭

平成11年度実験動物慰霊祭が、12月4日（土）午後1時から講義実習棟第一講義室において、たくさんの関係者および教職員の参列のもと執り行われました。



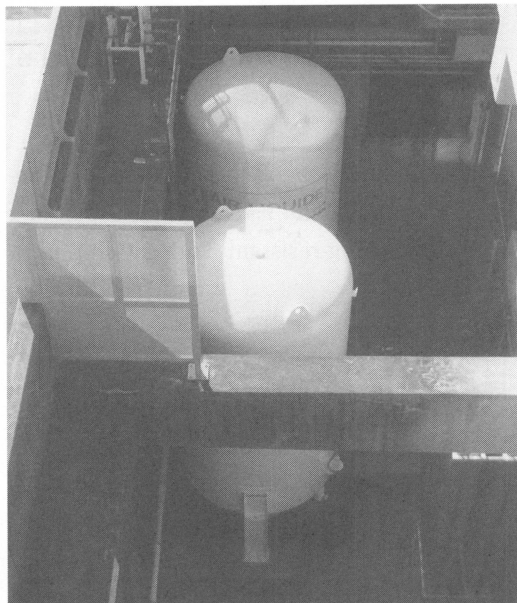
年賀交歓会開催

恒例の年賀交歓会が、1月4日（火）午後1時から第9会議室において、学長、病院長をはじめ、教職員約100名が出席して開催されました。



医療ガス設備改修工事

平成11年10月に着工した医療ガス改修工事が平成12年1月12日無事に竣功いたしました。工事の完成によりこれまでの液化酸素に加えて、純正空気の供給も合わせて行うことができました。これに伴い、既設の旧液酸タンク設備は、同月22日に撤去が完了しました。



第1回OSCEワークショップ

第1回OSCE（Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力評価試験）ワークショップが、「大阪医科大学におけるOSCEを取り入れたカリキュラムプランニング」をテーマに10月22日（金）、23日（土）の2日間、滋賀県草津市のホテルポストプラザ草津において開催され、タスクフォースとして学外から、津田司川崎医科大学教授と畑尾正彦日本赤十字武蔵野短期大学教授をお招きし、鳥田学長、阿部学生部長をはじめ、全診療科から教職員約45名が参加しました。

今回のワークショップは、5年生を対象とした新カリキュラムであるOSCEの実習が11月中旬から開始されるのに伴い、教員の研修を目的に開催されたもので、1日目は、午前9時45分に開会し、オリエンテーションを皮切りにカリキュラムプランニング、一般目標・個別行動目標に関する全体討論、評価表作成に関する小グループ討論などが午後6時まで行われました。2日目は、午前9時から、体験学習を中心に全体討論、質疑応答が行われ、午後2時45分に閉会しました。

参加者は新カリキュラムの開始を目前に、熱心に2日間のスケジュールに取り組んでいました。



主要会議とその主な議題

11月1日から1月31日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

[理事会]

(11月9日)

—審議事項—

1. 理事一部改選について
2. 理事長任期満了に伴う改選について
3. 平成12年度入学者に対する寄附金募集について
4. 大阪府三島救命救急センターとの救急医療研修協定書の締結について

(11月30日)

—報告事項I—

1. 平成11年度上半期収支状況報告

—審議事項—

1. 平成12年度予算編成について

—報告事項II—

1. 日本私立医科大学協会理事会報告について

(12月14日)

—審議事項—

1. 理事一部選任について

—報告事項—

1. 私立医科大学理事長会報告について

(1月18日)

—審議事項—

1. 監事の選任について

—報告事項—

1. 経営専門委員会報告
2. その他

[評議員会]

(1月18日)

—審議事項—

1. 監事の選任について

[教授会]

(11月10日)

1. 人事に関する件（助教授の任用他）
2. 脳神経外科学講座担当教授選考に関する件
3. 単位認定と進級判定に関する件

4. 教員組織検討委員会答申に関する件
5. その他
 - 1) 非常勤講師の任用について

(11月24日)

1. 人事に関する件 (助教授の任用他)
2. 内科学 (I) 講座担当教授の選考に関する件
3. 平成12年度授業時間割編成に関する件
4. 平成12年度入学試験当日の総監督及び総監督補佐の委嘱に関する件

5. その他

(12月8日)

1. 人事に関する件 (助教授の任用他)
2. 学則の一部変更に関する件
3. その他
 - 1) 平成11年度奨学生 (日本育英会・本学・仁泉会) の推薦に関する件
 - 2) 大阪医科大学先端医療の構築について
 - 3) 第1学年学生の退学願出について
 - 4) OSCEの評価について
 - 5) 平成12年度新入生学外合宿企画実行委員会委員の変更について

(12月22日)

1. 人事に関する件 (助教授の任用他)
2. 第4学年進級合否判定に関する件
3. 脳神経外科学講座担当教授選考に関する件
4. 附属病院長選挙に関する件
5. 学長予定者選挙管理委員会からの答申書に関する件
6. 旧進学課程と専門課程—基礎部門の再編に関する件
7. その他
 - 1) 大阪医科大学先端医療の構築について
 - 2) 助手について

(1月5日)

1. 人事に関する件 (非常勤講師の任用)
2. 第6学年卒業合否判定に関する件
3. 附属病院長選挙に関する件
4. 旧進学課程と専門課程—基礎部門の再編に関する件
5. その他

- 1) 新助手制度創設について
- 2) 平成12年度入学試験について

(1月19日)

1. 人事に関する件 (学内講師の任用他)
2. 第6学年学生の休学願出に関する件
3. 附属病院長選挙に関する件
4. 内科学 (I) 講座担当教授選考に関する件
5. 旧進学課程と専門課程—基礎部門の再編に関する件
6. 平成12年度入学試験 (医学部) に関する件
7. その他

- 1) 学長予定者選考規程施行細則の一部訂正について

- 2) 外国人教員の任用期間について

[大学院医学研究科委員会]

(11月24日)

1. 学位論文審査結果に基づく可 (合) 否決定に関する件

(12月8日)

1. 本年度第2回目の学位論文提出のための語学試験について

(12月22日)

1. 学位論文提出のための語学試験成績の合否判定に関する件
2. 研究生の願出に関する件

(1月19日)

1. 第2学年大学院生の退学願出に関する件

主な行事日程表

2月1日から4月30日までの学内における主要な行事予定は次のとおりです

- 2月1日（火）看護専門学校第一看護学科入学試験
- 2日（水）教授会・大学院医学研究科委員会
- 3日（木）大学院医学研究科入学試験（4日まで）
- 8日（火）理事会
- 10日（木）医学部入学試験〔学科試験〕（於関西大学）
- 18日（金）臨時教授会
医学部学科試験合格者発表
- 22日（火）理事研究会
医学部入学試験〔面接・小論文・健康診断〕（学科試験合格者対象）
- 23日（水）教授会・大学院医学研究科委員会
医学部入試合格者発表
- 27日（日）第89回看護婦国家試験
- 3月3日（金）看護専門学校卒業式
- 4日（土）第1学年春季休業
- 8日（水）教授会・大学院医学研究科委員会
- 9日（木）大学院医学研究科入試合格者発表
- 11日（土）第3・4学年春季休業
- 14日（火）理事会
- 18日（土）第2・5学年春季休業
第94回医師国家試験（19日まで）
- 22日（水）教授会・大学院医学研究科委員会
- 24日（金）医学部・大学院卒業証書・学位記授与式
- 30日（木）理事会・評議員会
第89回看護婦国家試験発表
- 31日（金）臨時教授会
- 4月3日（月）入学宣誓式（医学部・大学院）
- 4日（火）新入生学外合宿（於亀岡ハイツ）（6日まで）
- 7日（金）第2学年オリエンテーション
新入生オリエンテーション（10日まで）
- 10日（月）第3・4学年オリエンテーション
第5学年授業開始
第6学年臨床実習開始
- 11日（火）理事会
看護専門学校入学式
第3・4学年授業開始
- 12日（水）教授会・大学院医学研究科委員会
- 20日（木）第94回医師国家試験合格発表
- 25日（火）理事研究会
- 26日（水）教授会・大学院医学研究科委員会

附 ・ 属 ・ 病 ・ 院

附属病院のコンピュータ2000年問題対策について

附属病院コンピュータ2000年問題対策委員長 山本 隆一

2000年1月1日も皆様のご協力を得て無事に過ぎ、コンピュータ2000年問題も一山越えたというところ。この機会に本学附属病院のコンピュータ2000年問題への取り組みをご報告いたします。大阪医科大学附属病院では平成11年2月より対策準備委員会、3月3日より対策委員会を設けて、病院サービス課が中心となって以下のようにコンピュータ2000年問題への対策を講じてまいりました。

1 想定脅威の分析

想定脅威は院内脅威と院外脅威にわかれ、院内脅威としては、コンピュータ組み込み医療機器、事務機器、設備機器などの問題日付（2000年1月1日、2月29日、12月31日）の誤作動。コンピュータシステムの問題日付での誤作動が挙げられます。院外脅威としては問題日付でのライフラインの障害、通信の障害、交通事故やパニックによる医療対象者の増大、近隣医療機関の内部障害による医療支援の要請、1月4日以降の流通障害による薬品医療材料、食材などの不足などを想定しました。

2 対策

対策は院内脅威と院外脅威をわけて行い、院内脅威に対しては問題を起こす可能性のある機器の洗い出しと対応、模擬テストを行い、院外脅威に対しては危機管理計画を策定いたしました。

機器の対応でもっとも重要なものは医療機器ですが、僅かでも障害の可能性のある機器565品種をリストアップし、製造元などへの問い合わせを通じて調査、252品目は日付管理がされていない対象外と判明し、すでに使用されてなく廃棄したものが13品目あったため、残りの300品目の対応を行いました。結果的に298品目に対応を行い、模擬テストが実施不可能な12品目をのぞいて模擬テストも行いました。未対応2品目は2000年1月1日以降は安全性が確認されるまで使用はしません。医療機器以外の組み込み機器についても管財用度課、施設課を中心に対応を行い、またオーダエントリーシステムや部門システムなどのコンピュータシステムもすべて対応いたしました。

危機管理体制は当面の問題として1月1日の危機管理体制を整備し、各院内会議や部署責任者へ配布した通りです。危機管理体制の骨子は連絡体制の強化、2000年問題の影響の可能性のある医療機器を使用している患者さんの把握、ライフラインの障害に対する非常用施設の点検と整備、パニックや大規模災害などに対する基幹病院としての対応体制の整備です。いずれも皆様方の協力で遅滞なく整然と整備することができました。対策委員会としてあらためてご協力に感謝いたします。

3 今後

1月1日は世界的にいくつかの分野ではトラブルがあったものの、医療面では大きな障害もなく、本院も平穩に通過いたしました。2月29日や12月31日など、また問題日とされている日があり、今後も対策に遺漏のないように努めたいと思いますので、ご協力をよろしく申し上げます。

保健管理室からのお知らせ

定期健診・生活習慣病健康診断結果

教職員定期健康診断・生活習慣病健診は10/1（金）～10/15（金）まで8日間で実施しました。前年と同様個人宛に健診指定日容器をセットにしてお知らせしました。又、会議等を通して受検のアナウンスを流したりした結果、全体では89%でした（前年度は85.1%）。教員の受検率が前年の49.4%から60.7%に増加したことが今回の良い結果につながりました。

教室では精神神経科、1内科、口腔外科学教室が90%代の受検率を記録しました。

健診項目については体脂肪率を測定したにもかかわらず結果報告をとりやめました。理由については測定された方はご存知かと思いますが測定値に余りにも変動があり（正確性が低い為）ましたので…。折角測定したのに申し訳ありませんでした。測定方法について対処していく予定です。

なお今回からLDLコレステロール値もお知らせしていますので、「生活習慣の変容」を目指す参考の一つに加えて下さい。

胸部撮影については昨年は「結核緊急宣言」が出され、心配しましたが幸いなことに胸部X-P結果では結核の有所見者はおられませんでした。胸部撮影が一番ご面倒をおかけしていると思いますが、病院業務優先で行っておりますのでご協力よろしくお願ひします。

発病の早期発見には定期健診、有症状時（2～3週間以上も続く咳、痰、微熱等）受診といわれていますので定期健康診断を必ず受けて下さい。健診結果については下記の通りです。

図1 定期健康診断 年度別受検率（職種別）

	1997年			1998年			1999年		
	対象者(人)	受検者(人)	受検率(%)	対象者(人)	受検者(人)	受検率(%)	対象者(人)	受検者(人)	受検率(%)
教員	325	69	21.2	320	158	49.4	323	196	60.7
技術職	225	129	57.3	239	188	78.7	209	177	87.7
技能職	55	46	83.6	31	31	100.0	52	50	96.2
事務職	223	175	78.5	179	161	89.9	214	205	95.8
労務職	58	58	100.0	55	54	98.2	53	53	100.0
看護職	706	695	98.4	736	732	99.5	697	697	100.0
看護学校	16	14	87.5	18	18	100.0	14	14	100.0
総計	1608	1186	73.8	1578	1342	85.1	1563	1392	89.1

図2 定期健診職種別受検率

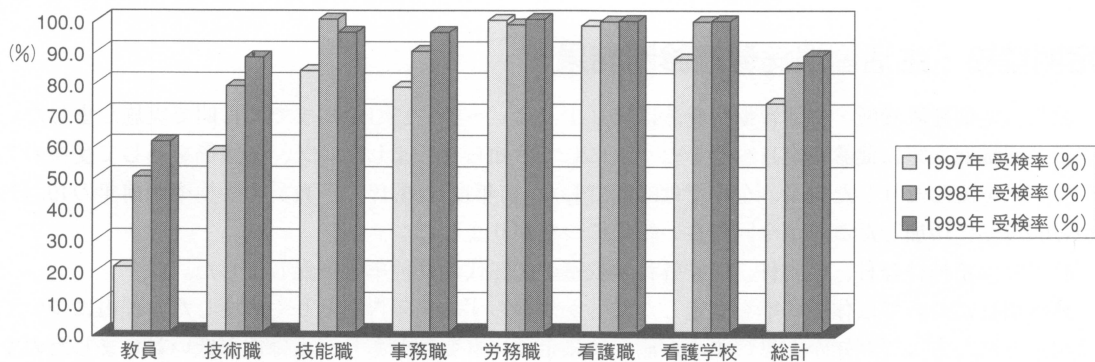
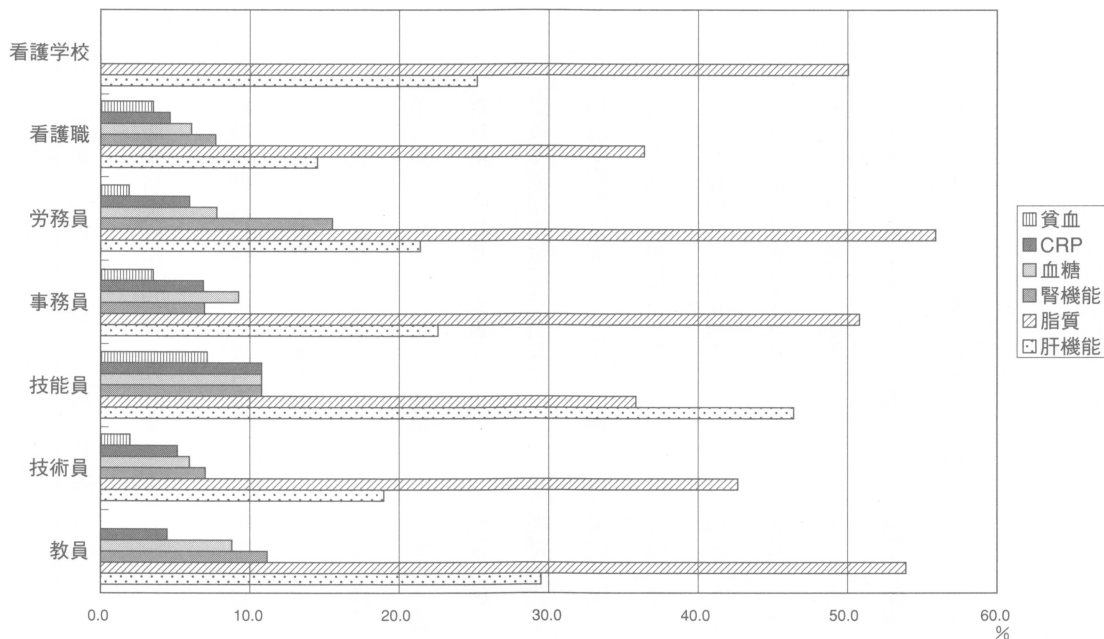


図3 1999年度職員健診・生活習慣病健診有所見者数（職種別）

職種	生活習慣病					一般健診					総数	有所見率(%)
	対象者数	要経過観察	要精密検査	総数	有所見率(%)	対象者数	要経過観察	要精密検査	総数	有所見率(%)		
教員	141	61	50	111	78.7	55	8	1	9	16.4	120	61.2
技術員	101	49	28	77	76.2	76	13	2	15	19.7	92	52.0
技能員	28	10	13	23	82.1	22	5		5	22.7	28	56.0
事務員	92	49	29	78	84.8	113	16	2	18	15.9	96	46.8
労務員	52	35	15	50	96.2	1				0.0	50	94.3
看護職	204	121	30	151	74.0	493	47	1	48	9.7	199	28.6
看護学校	8	2	2	4	50.0	6	2		2	33.3	6	42.9
総計	626	327	167	494	78.9	766	91	6	97	12.7	591	42.5

図4 健診項目別有所見率（職種別）



最後に健診時にご協力頂きました、看護部、中央検査部、放射線科をはじめ各部署の方々に感謝いたします。ありがとうございました。

掲示板

平成12年度B型肝炎ウイルス抗原抗体検査・抗体確認検査。HCV抗体検査実施予定

日時 平成12年4月19日（水）、20日（木）午後2時～3時30分

場所 第10会議室

* 申し込み制となりますので各部署に申込用紙が配られましたら希望者は記入し、期限までに保健管理室へ提出して下さい。（3月中旬予定）

大阪医科大学俳句会（九／十／十一月）

秋の声砂丘に砂のほか要らぬ	塚本 務人
ピピと鳴るお風呂かお爛か討入か	今井 雄介
吊り橋や大きな秋の懐に	古川 洋子
地に伝ふモールス符号木の実降る	中川 一成
舞ひ落ちる紅葉に表裏独居房	梶野 興三
鳥渡る無用の電話は右耳に	梶野香代子
地獄絵の火の手をこここまんじゆしやげ	奥田 筆子
沢庵の尻尾の味見ちちろ闇	吉田 孝江
蕎麦三粒のせて薯蕷城下町	飯塚 久子
甘味料溶ける夜寒を向き合ひて	美濃 眞
秋しぐれ軒に祀りし赤地藏	中川 貞子
トンネルの剥ぐるも旅や金木犀	山崎 隆司
懸崖の菊の序の舞始まれり	（投稿） 宮脇 芳美

投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、当句会で会員の出句と同じように選句します。入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-0084 高槻市沢良木町2-41

大阪医科大学さわらぎキャンパス

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。

太田光熙先生 松島寛三郎先生胸像除幕式



向かって左側：太田先生 中央：吉津先生 右側：松島先生胸像

本学の前身である大阪高等医学専門学校の設立者で初代理事の太田^{みつ}光熙^{ひろ}先生、松島寛三郎先生胸像除幕式が11月12日（金）午後2時から、太田家、松島家御親族、胸像作者の江里敏明先生をお迎えし、田中理事長を始め本法人役員他が出席して挙行されました。

太田光熙先生は、明治7年山口県生まれで、東京帝国大学法学部卒業後、逓信省を経て京阪電気鉄道株式会社に入り、大正14年に同社取締役社長に就任され、岡崎邦輔前社長の意を受け、吉津度衆議院議員に協力して、本学の前身である大阪高等医学専門学校の設立に参画されました。

また、松島寛三郎先生は、明治8年広島県生まれで、京都帝国大学土木工学科卒業後、帝国鉄道等を経て京阪電気鉄道株式会社に入り、大正15年に同社取締役に就任され、太田光熙社長と共に、吉津度衆議院議員に協力して、本学の前身である大阪高等医学専門学校の設立に参画されました。

大阪高等医学専門学校設立には、京阪電気鉄道株式会社からの全面的な経済援助が行われ、大阪高等医学専門学校の設立、そして下新庄から現キャンパスへの移転、校舎建築の全般に亘り、当時の太田、松島両理事の果たした功績は誠に大きく、創成期の大阪高等医学専門学校を経営から支え、現在の大阪医科大学の礎を築かれました。

大阪医科大学学報 第43号

発行年月 平成12年2月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総務部

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/OFFICE/>